

# 令和5年度 山口県医師会学校医研修会・学校医部会総会

と き 令和5年12月3日(日) 15:00～16:10

ところ 山口県医師会 6階会議室(ハイブリッド開催)

[報告: 常任理事 河村 一郎]

## 学校医部会総会 (15:00～15:10)

学校医研修会に先立って、加藤部会長の議事進行により、令和5年度山口県医師会学校医部会総会が行われ、令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画が承認された。また、これまで12月に開催していた学校医部会総会について、次年度より5～6月ごろの開催に変更することについて報告が行われた。これに伴い、例年総会と同日に開催している学校医研修会・予防接種医研修会・学校心臓検診精密検査医療機関研修会の日程も同様に変更することとなった。

## 学校医研修会 (15:10～16:10)

### 山口県における不登校対策

山口県教育庁学校安全・体育課主幹 上田幸一郎

令和4年度の山口県における不登校児童生徒数は小学校973名、中学校2,060名、高等学校345名、中学校における不登校生徒の出現率は61.0%で、全国の59.8%を上回っている。不登校が増えている要因については、保護者の学校に対する意識の変化も考えられるが、長期化するコロナ禍による生活環境の変化で、生活リズムが乱れやすい状況が続いたことや学校生活においてさまざまな制限がある中で交友関係を築くことが難しかったことなど、登校する意欲が湧きにくい状況にあったことも考えられる。

国の不登校対策としては、文部科学省から令和5年3月に「COCOLOプラン」が発出された。その概要は、1. 不登校の児童生徒すべての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える、2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する、3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場

所にする、となっている。

山口県では令和5年度から新たな事業として、中学校及び高校0年生からの教育相談事業とステップアップルーム(以下、「SUR」)事業が始まった。0年生事業は中学校及び高等学校に入学予定の小学6年生、中学3年生を対象として、不安や悩みを抱え、支援が必要とされる児童及び生徒を入学前に把握するとともに入学前後の支援の体制を充実させるというものである。3～4月にスクールカウンセラーを各中学校区及び各高校に原則1回4時間、計6回派遣している。令和5年3月にアンケートを実施した結果、支援が必要な児童生徒数は小学6年生937人、中学3年生329人であり、令和5年9月時点で継続して支援の必要な生徒は中学1年生155人、高校1年生52人であった。SURは令和5年度、県内22の中学校に設置され、不登校が発生する前段階での予防的な取り組みが行われている。SURの環境整備としては教室の配置に配慮し、生徒が自分のペースで学べるようにリラックスできる空間にしている。令和5年4～7月までにSURを利用した生徒数は219人、SURを利用することにより学校に来ることができるようになった生徒数は34人、教室に復帰した生徒は38人である。

不登校対策の今後の課題としては、不登校児童生徒の保護者の支援、医療機関や福祉関係との連携などがある。

山口市立大内中学校 SUR サポート教員 中川 真治

令和5年度、山口市の大内中学校にSURが設置された。大内中学校のSURは仲間と過ごしやすい空間づくりをして、他の生徒との関わりが全く持てない生徒は個室ブースで学習をしている。

学習活動としては、担任による学習支援、サポート教員による授業、実物を使った学び、他の生徒と一緒に学び合い、カウンセラーやALT(Assistant Language Teacher) や地域の人とのふれあい、博物館での学習、オンライン授業、自クラス生徒とのふれあい、体育館でのスポーツなどを行っており、夏休みには10日間の学習会を行って12人の参加者があった。他に夏休みには天体観望会(予定であったが台風接近のため中止)、絵文字体験、教員研修などを行った。また2学期から「kokoro rescue」というサイトを開設し、SOSが出せるシステムづくり、教育相談アンケートの実施、カウンセラーの来校日の提示、外部相談機関の電話番号提示、SUR生徒の把握と情報共有、校区内小学校及びカウンセラー担当指導主事、市内SURサポート教員とのチャットを利用した情報共有を行っている。

令和5年度のSUR利用生徒は9月が最大で来室総数206名、1日平均10.3名、利用者が17名と多くなりすぎて10月以降来れなくなった生徒もいる。

SUR運用のポイントは学校全体の不登校生徒の見直し、減らす発想から増やさない発想へ、苦しんでいる親への支援、担任の関わりや先生と生徒との信頼関係が最も重要である。課題としては利用生徒の増加に伴う場所の確保、学習に向かう意欲がなかなか向上しない生徒への対応、対応の中心は担任、学年部が基本だがSURサポート教員の対応が多くなることなどが挙げられる。

### 死体検案数掲載について

山口県警察管内発生の死体検案数								
	自殺	病死	他殺	他過失	自過失	災害	その他	合計
Dec-23	17	210	0	0	16	0	21	264

死体検案数と死亡種別 (令和5年12月分)

